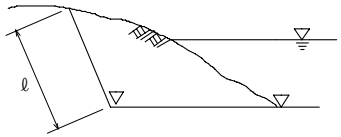
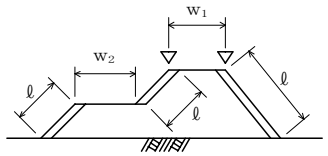
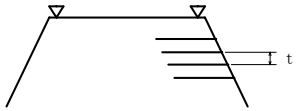
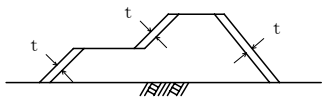
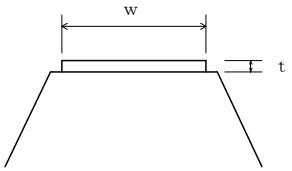
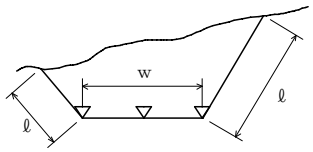
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

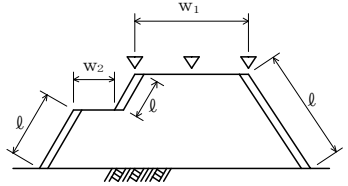
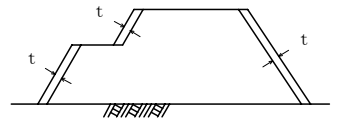
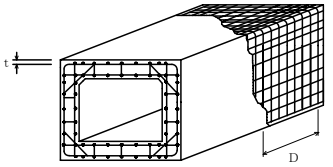
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	2		掘削工	基準高 ▽		±50	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。 基準高は掘削部の両端で測定。		
						法長 ℓ	ℓ＜5m	−200			
							ℓ≧5m	法長−4％			
1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	3		盛土工	基準高 ▽		−50	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。 基準高は各法肩で測定。		
						法長 ℓ	ℓ＜5m	−100			
							ℓ≧5m	法長−2％			
						幅 w_1, w_2		−100			
1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	4		盛土補強工 （補強土（テールアルメ）壁工法） （多数アンカー式補強土工法） （ジオテキスタイルを用いた補強土工法）	基準高 ▽		−50	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。		
						厚さ t		−50			
						控え長さ		設計値以上			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	5		法面整形工（盛土部）	厚さ t		※－30	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所、法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。		
1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	6		堤防天端工	厚さ t	t＜15cm	－25	幅は、施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき１箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは１施工箇所につき２箇所。 厚さは、施工延長 200mにつき１箇所、200m以下は２箇所、中央で測定。		
							t≧15cm	－50			
						幅 w		－100			
1 共通編	2 土工	4 道路土工	2		掘削工	基準高 ▽		±50	施工延長 40mにつき１箇所、延長 40m以下のものは１施工箇所につき２箇所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。		
						法長 ℓ	ℓ＜5m	－200			
							ℓ≧5m	法長－4％			
						幅 w		－100			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1 共通編	2 土工	4 道路土工	3 4		路体盛土工 路床盛土工	基準高 ▽		±50	施工延長 40mにつき１箇所、延長 40m以下のものは１施工箇所につき２箇所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。		
						法長 ℓ	ℓ＜５m	－100			
							ℓ≧５m	法長－２%			
						幅	w_1, w_2	－100			
1 共通編	2 土工	4 道路土工	5		法面整形工（盛土部）	厚さ t		※－30	施工延長 40mにつき１箇所、延長 40m以下のものは１施工箇所につき２箇所。法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。		
1 共通編	3 無筋、鉄筋コンクリート	7 鉄筋工	4		組立て	平均間隔 d		±φ	$d = \frac{D}{n-1}$ D：ｎ本間の延長 ｎ：10 本程度とする φ：鉄筋径 工事の規模に応じて、１リフト、１ロット当たりに対して各面で一箇所以上測定する。最小かぶりは、コンクリート標準示方書（構造性能照査編 9.2）参照 注 1）重要構造物 かつ主鉄筋について適用する。 注 2）橋梁コンクリート床版桁（ＰＣ橋含む）の鉄筋については、第３編３－４－12 床版・横組工を適用する。 注 3）新設のコンクリート構造物（橋梁上部・下部工）の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領（案）」を適用する。		
						かぶり t		±φかつ最小かぶり以上			